

(近年では利鞘と銀行貸出に相関が見られない)

次に、貸出が伸びない要因を探るため、銀行の預金量と貸出金の動向や貸出利鞘の動きを見てみよう。過去5年程度の銀行預金と貸出金の推移及びその差（預貸ギャップ）を見ると、預金はコンスタントに増加する一方、貸出金の方が、リーマンショック直後を除き、おおむね横ばい、もしくは低下しており、特に、2009年以降は低下傾向が定着している（第1-2-17図（1）、（2））。結果として、預貸ギャップは2009年以降拡大傾向にある。預金増加により、銀行の資金調達は容易である一方、それに見合った貸出先が探し出せていない。銀行に資金は集まるものの、銀行から外の経済主体に資金が出て行かず、マネーストックの伸びにはつながっていない。

こうした資金調達と貸出の動向を利回りの面から見ると、2006年から2009年にかけて、調達利率、貸出利率ともに大きく低下しているが、貸出利率の低下幅の方が相対的に低いため、貸出利鞘は若干の改善傾向にあった（第1-2-17図（3）、図中の45度線を上回る領域では、貸出利率の伸びが資金調達利率の伸びを上回るため、利鞘は改善する）。利回りの点からいえば、貸出の伸び悩みの要因とはいえない。

実際、貸出利鞘の変化と貸出金の増減を散布図にしても、両指標の間に明確な相関は見られない（第1-2-17図（4））。貸出金が増加した年だけに限っても、利鞘動向はむしろ悪化していたケースが見られる。貸出利率と調達利率の比較考量によって、銀行が貸出態度を決めているとは、少なくともこの結果からはいえない。銀行が、潤沢な預金量にもかかわらず、貸出を増加するインセンティブが弱い理由を別に求める必要がある。

(銀行の貸出減少と国債保有拡大の背景には企業の手元資金の厚さ)

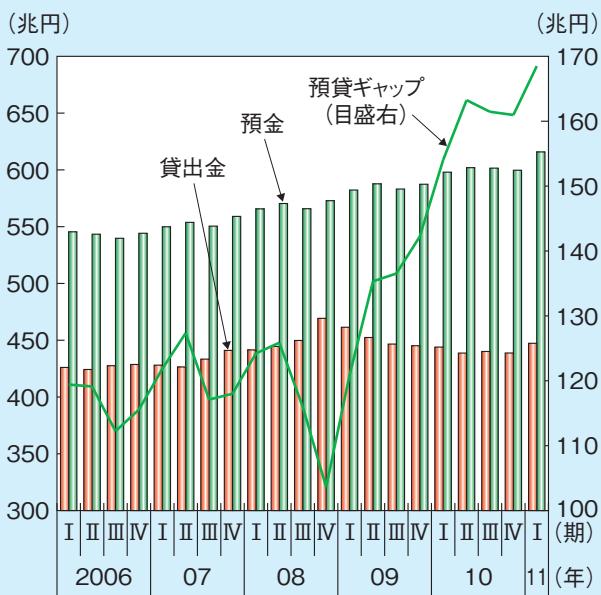
銀行の保有資産に占める貸出のシェアは、2008年後半以降、低下傾向にある（第1-2-18図（1））。その間、株式や社債の保有シェアに大きな変化がない一方、国債・国庫短期証券のシェアは拡大しており、保有資産の内容が貸出から国債等にシフトしている姿となっている。結果として、銀行部門が国債増発の受け皿となっているといえる。しかし、銀行の収益構造を見ると、必ずしも国債保有の収益性が貸出に比べて高まっているという姿はうかがえない。例えば、個別銀行ごとの財務諸表を総合すると、貸出金利息による収益は経常収益の5割以上を占めており、最大の収益源であることに変わりはない（第1-2-18図（2））。2008年から2009年にかけて貸出量は減少しているが、同時期の貸出金利息の経常収益に占めるシェアは下がっておらず、むしろ若干上昇している。収益構造を考えれば、銀行にとっては貸出増の方が国債保有よりも望ましいとも考えられる。

他方、資金需要は依然として弱い。2010年半ば以降、設備投資は持ち直してきたにもかかわらず、企業の設備投資用の資金需要は依然として前年比マイナスを続けている（第1-2-18図（3））。デフレ状況が続くなれば企業の期待成長率は低下しており、設備投資の持ち直しのペースは鈍い。その一方で企業収益は改善傾向にあることから、企業は設備投資の増加を手元資金で賄える状態にある。実際、企業の現預金残高は2009年以降高い伸びを示している（第

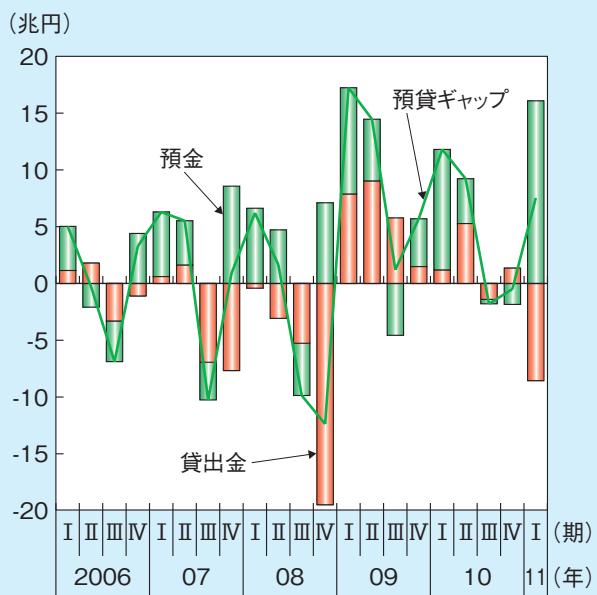
第1-2-17図 預貸ギャップと貸出利鞘

近年では利鞘の状況と銀行貸出に相関が見られない

(1) 預貸ギャップの動向

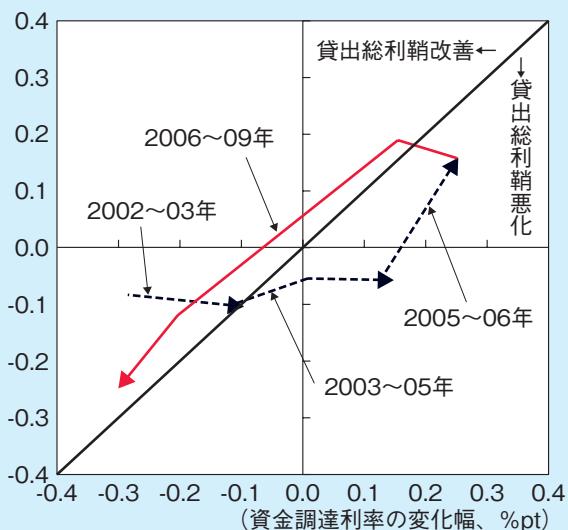


(2) 預貸ギャップの伸び (前期比)



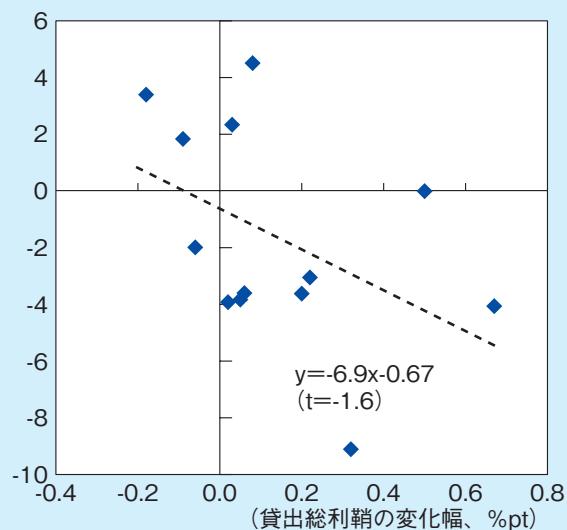
(3) 貸出総利鞘の状況

(貸出利率の変化幅、%pt)



(4) 貸出金の伸びと貸出総利鞘の関係

(貸出金の伸び (前年比)、%)



- (備考) 1. 日本銀行「資金循環統計」、全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」により作成。
 2. 貸出総利鞘の状況の算出に当たっては、全国銀行の各年度末データを合算して算出した。

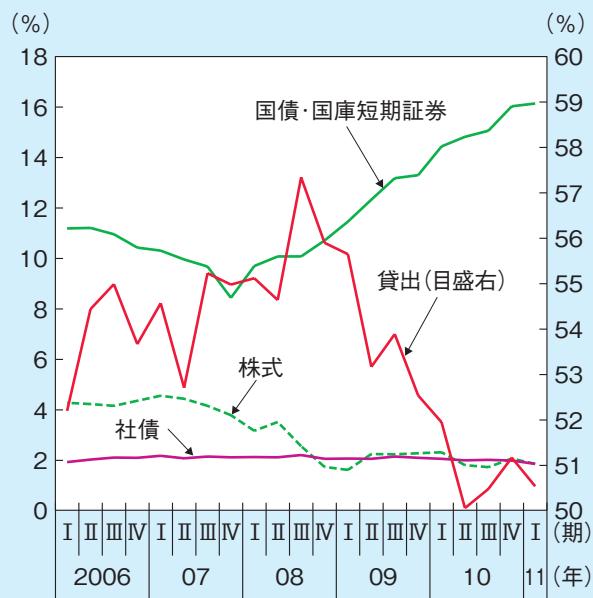
$$\text{貸出総利鞘} = \text{貸出利率} - \text{資金調達利率}, \text{貸出利率} = \text{貸出金} \div \text{貸出利息}, \text{資金調達利率} = \text{資金調達} \div \text{資金調達費用}$$
とした。
 3. 貸出金の伸びと貸出総利鞘の関係の算出については、1997年～2009年度の貸出金の伸び (前年比) と貸出総利鞘の変化幅をプロットした。

1-2-18図(4))。企業の潤沢な手元資金とそれに比べて弱い設備投資需要、さらに、財政赤字拡大による国債発行の増加といった要素が組み合わさることによって、銀行保有資産の貸出から国債等保有へのシフトが生じていると考えられる。

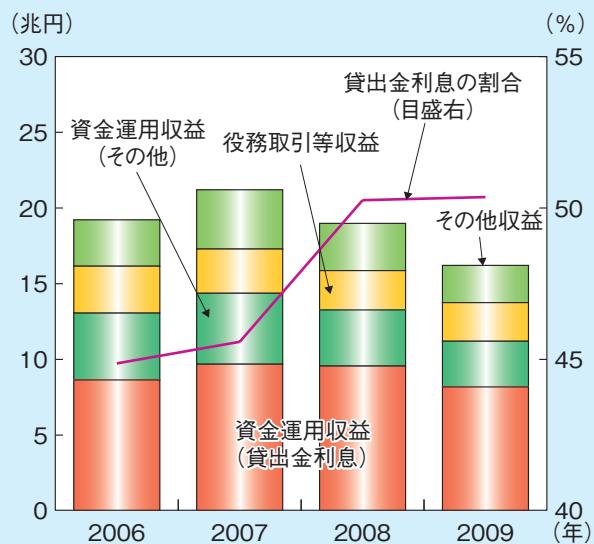
第1-2-18図 貸出減少と国債保有の増加

銀行の貸出減少と国債保有の拡大の背景に企業の手元資金の厚さ

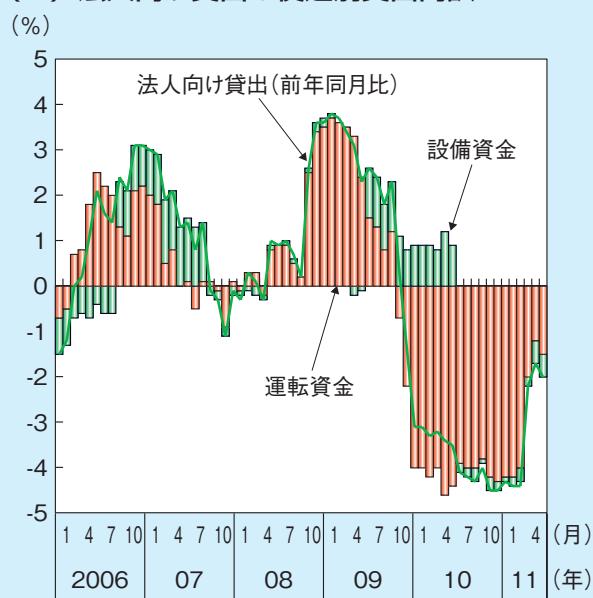
(1) 銀行保有資産の推移



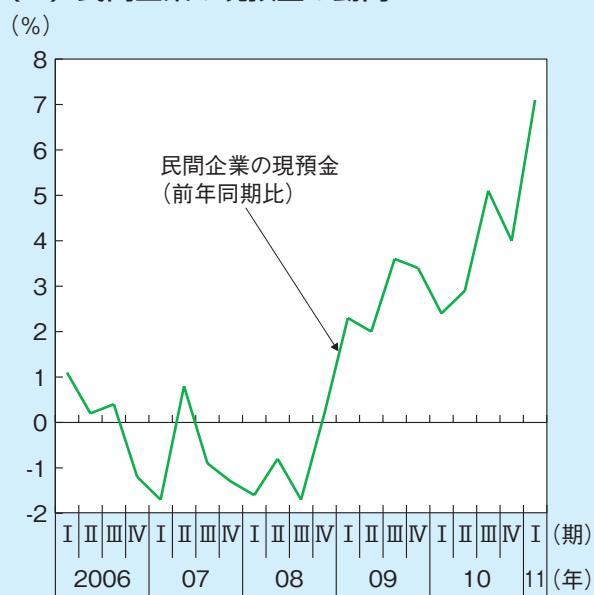
(2) 銀行の経常収益の内訳



(3) 法人向け貸出の使途別貸出内訳



(4) 民間企業の現預金の動向



(備考) 1. 日本銀行「資金循環統計」、「貸出先別貸出金」、全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」により作成。
 2. 銀行の経常収益の内訳の算出に当たっては、全国銀行総合財務諸表(単体)における損益計算書(全国銀行計)を参照した。
 3. 民間企業の現預金については、民間非金融法人企業の資産のうち現金・預金の増減(前年同期比)を参照した。また、運転資金は、法人向け貸出全体から設備資金を差し引いて算出した。